

# がん細胞と大豆イソフラボンの関係

## 乳がん患者は納豆を食べてはいけけない?

乳がん治療のため大豆製品を控えている。こんな内容の投稿が、近頃SNSで散見される。納豆、豆腐、豆乳などは、乳がんリスクを上げる？ 乳がん治療専門医の志茂新医師(言葉病院三軒茶屋フレステンター院長)に聞いた。

乳がんの70%は「ホルモンの増殖に強いかかわり」を有する「ホルモン依存性乳がん」と呼ばれる。大豆に含まれるポリフェノール「大豆イソフラボン」が「エストロゲンが乳がん細胞の増殖を促進する」として、女性ホルモンの働きを模倣する可能性がある。大豆イソフラボンが「エストロゲン」の働きを模倣する可能性がある。大豆イソフラボンが「エストロゲン」の働きを模倣する可能性がある。



2022年版の乳がん診療ガイドラインには「食生活によるエストロゲン曝露を減らす」という記載がある。エストロゲンは乳がんの増殖を促進する可能性がある。大豆イソフラボンはエストロゲンの働きを模倣する可能性がある。大豆イソフラボンが「エストロゲン」の働きを模倣する可能性がある。

大豆イソフラボンは、大豆由来の成分で、エストロゲンの働きを模倣する可能性がある。大豆イソフラボンが「エストロゲン」の働きを模倣する可能性がある。大豆イソフラボンが「エストロゲン」の働きを模倣する可能性がある。

### 再発リスクを上げるNG食品

「特に食ってはいけないものはありますか？」と聞くと、「大豆製品は、大豆イソフラボンがエストロゲンの働きを模倣する可能性がある。大豆イソフラボンが「エストロゲン」の働きを模倣する可能性がある。」

### 健康診断で指摘された人は要注意

今年の消化器学の専門誌に、それについてのアメリカの研究結果が報告されています。アメリカの研究結果が報告されています。アメリカの研究結果が報告されています。

集中連載①  
**最新 依存症事情**  
毎年5月に実施される「依存症問題啓蒙週間」が、今年も14日から20日まで実施される。そのほか、今年も14日から20日まで実施される。そのほか、今年も14日から20日まで実施される。

本人に自覚がなかった30代男性  
大石院長は1991年から初めて依存症とわかった。本人に自覚がなかった30代男性。大石院長は1991年から初めて依存症とわかった。



本人に自覚がなかった30代男性  
大石院長は1991年から初めて依存症とわかった。本人に自覚がなかった30代男性。大石院長は1991年から初めて依存症とわかった。

本人に自覚がなかった30代男性  
大石院長は1991年から初めて依存症とわかった。本人に自覚がなかった30代男性。大石院長は1991年から初めて依存症とわかった。

### 医学の新常識

医学の新常識  
お酒は「飲み過ぎ」が良くないというわけではなく、お酒は「飲み過ぎ」が良くないというわけではなく、お酒は「飲み過ぎ」が良くないというわけではなく。

お酒は「飲み過ぎ」が良くないというわけではなく、お酒は「飲み過ぎ」が良くないというわけではなく、お酒は「飲み過ぎ」が良くないというわけではなく。